

2023-11-1
No.1094 500円

思想運動

特集＝パレスチナとの連帯を	1～5面
沖縄から考える岸田政権の戦争政策	6～7面
「ネオ台湾派」の蠢動	8面
新冷戦と韓国のマッカーシズム	9面
東部労組でフリーランス支部結成	10面
HOWS後期プレ企画で小出裕章さんが講演	11面
劇評＝『星をかすめる風』について	12面



イスラエルはガザ絶滅戦争を止めよ 大義は全面的にパレスチナの側にある

イスラエルの人種主義的 な民族浄化戦争

イスラエルにとって目的はハマスの攻撃に反してイスラエルの領土を拡大することではない。十月十七日にハマスの幹部一人の殺害をイスラエルは発表したが、この前後までにガザの民間人が住まう一四万戸以上の住居が全壊された。イスラエルの攻撃は、人種主義的絶滅戦争の形相を呈している。十月十二日、イスラエル国防軍はガザの北半分に住む一〇万人に南半分への「避難命令」を発したが、やむなくその指示に従って移動する車列も爆撃された。『BBC』は十月十七日付の報道で、七〇人が虐殺されたこの殺戮を「ねじれて、ぐちゃぐちゃになった死体があちこちに散らばっている」と表現したが、同様の残虐行為がガザのいたる場所で行なわれている。ガザ保健省の発表によれば、十月十七日には、ガザのアル・アハリ病院がイスラエル軍の爆撃で破壊され、四七一人以上のパレスチナ人が虐殺された。

現在の戦争は紛れもなくガザの住民全体を標的としており、死者はすでに数千人に達した(『タイムズ・オブ・ガザ』十月十三日付の報道に「二四五〇人が行方不明」)。十月九日(ワラント国防相が人間の姿をした動物、十二日にはネフタリフ首相が「野生動物」とパレスチナ人を公然と呼び捨てると、イスラエルの政治指導者はパレスチナ人への殺戮を「テロリズムやシトライヒヤーのような残虐な行為」と正当化している。これは住民の強制的な移住を禁ずる「人道に対する罪」(二ニルンベルク憲章第六條C項目)に該当するし、現に行っているのはガザの北半分からのパレスチナ人の追い立てであって、残ったパレスチナ人に対する殲滅戦争である。現地からの多数の報道や証言によれば、この原稿を書き終えた現地時間二十日夜、イスラエルとの境界線に近いシヤバリア難民キャンプも含む北部を中心に、ガザ全域を標的とする、エスカレーションが始まって以来最大規模の夜間爆撃が行なわれた。それも二五の医療機関が攻撃を受けている事実(十月十七日のWHO発表)だけを見ても、イスラエルの軍事作戦がハマスの向けられていると考えるのは幻想ではない。

**否定されると同時に
継続するナクバ**

占領、空爆・爆撃、民族浄化、住居の取り壊し、捕縛、監禁、先祖代々の土地からの追放、入植地の建設・拡大、果樹園や作物の蹂躪、水をはじめとする資源の略奪、強制的な移住、外へのアクセスの制限・支配―イスラエルがパレスチナ人に対して恒常的な抹消をはかる「歴史の書き換え」も含まれる。イスラエルの暴力である。現在の戦争は、イスラエル、そしてイスラエルに軍事的・経済的・イデオロギー的な支援を与え続けてきた西側諸国に二〇〇%の責任がある。とりわけ「歴史の書き換え」や「情報操作」を含むイデオロギー的な支援は重要であって、イスラエルのどんな非人間的な残虐行為でも許されるかのような現在のパレスチナの事態は、一九四八年にパレスチナ人の社会を、侵略者であるイスラエルが「建国」の過程で破壊し尽くしたことの直接の帰結である。この「ナクバ」(破壊)と呼ばれる植民地主義の暴力によって、デイル・ヤシンをはじめとする村々で残虐行為が展開され、七五万人のイスラエル人が故郷を追われ難民となった。「パレスチナ問題」は実際には複雑ではなく単純であり、それまで人びとが住んでいた土地を勝手に奪って追放するという現在まで続くイスラエルの侵略「バルフォア宣言」であり、この宣言による支持を得て二ニルンベルク憲章第六條A項目)から生まれている問題ではない。一九六七年の戦争では、ガザ、ヨルダン川西岸、東エルサレムも侵略され、占領、入植地の建設が進められた。それは、二ニルンベルク裁判であらゆる他の悪事を生み出す犯罪として、最悪の国際犯罪」と言われている(一九三七年のビル委員会の報告書)。「パレスチナ問題」は、一九三七年のビル委員会の報告書に於けるチャーチルの発言「この宣言は、独立国家を建設するはずだったパレスチナ人の空間をイスラエルの穴のような形に縮小・分断させられていった。パレスチナに残されたのは国境のみから管理できず何ら独立の内実なき空虚な「自治」だけだった。この状況に抗議する、当初は非暴力のデモで始まった二〇〇年以降の第二次インティファダもイスラエル軍の残忍な弾圧で敗北に終わり、二〇〇五年以降、イスラエル軍の見せかけの「撤退」(二面二二頁)

パレスチナ人の解放なき解放は不完全である―ネルソン・マンデラかつてアパルトヘイト体制を経験した南アフリカでは、全人民規模でガザ爆撃反対、パレスチナ人との連帯の声があげられている。写真は、十月二十日に、ANC(アフリカ民族会議)やSACP(南アフリカ共産党)が主催した首都プレトリアでのイスラエル大使館前抗議行動のもの。ネルソン・マンデラの言葉は一九九七年の国際パレスチナ人民連帯デーでの演説より。

沖縄11・23県民平和大会に連帯を！

沖縄 「争うよりも愛したい。」11・23県民平和大会
東京 沖縄も日本も戦場にさせるな！11・23国会前アクション
大阪 沖縄を再び戦場にさせない！県民大会同時集会 in 大阪

「詳細記事」(6～7面)